

「命の尊さ」を見つめ直しましょう！

戦後64年が過ぎ、世の中も変わりました。何の理由もなく人を殺したり、人を傷つけたりする事件が次々と起こっています。「殺すのは誰でもよかった」という言葉さえ発せられるようになりました。命を奪われた人の周りには、何人もの哀しむ人がいるというところ、そして、その哀しみは永く癒されずに残るということが実感できないのでしょうか。私たちは、もっと「命の尊さ」を見つめ直さなければならぬと思います。

兄の死

筆者は小学校を卒業するまで、兄がいたということを知りませんでした。両親が、兄のことを話さなかったからです。中学生になって、はじめて、母から兄についての話を聞きました。

それは、次のような話でした。

今から70年ほど前、日本は戦争をしていて、物がなかった時代です。家族は小さな田舎町に住んでいました。そこで、兄が赤痢にかかったのです。下痢をして寝込み、苦しんでいるのに薬もなく、ただ布団に寝ているだけだったそうです。脱水症状がひどくなり、だんだんと兄の体は弱っ

ていきます。そんなある日、

兄がほつりと「リンゴが食べたい」と言ったそうです。両親は、兄にリンゴを食べさせてやりたいと、店に走りまわりました。しかし、どの店にもリンゴはありません。それもそのはずです。戦争中で何もない時代ですから。そして、とうとう兄はリンゴを食べないまま息を引き取りました。12歳でした。兄の亡骸（なきがら）を茶毘（だび）に付き、遺骨を隣町にある墓まで歩いて納めに行ったそうです。今では車ですぐ行けますが、当時は車もなく骨壺を胸に抱いて、一日がかりで歩いて行ったそうです。そういうことを、母は涙ながらに話しました。

その後、兄のことについて母から聞いたことはありません。兄のことを聞くと、母が涙を流すので、もうこれ以上聞かないと思っただけです。しかし、今になってみると、もう少し兄のことを聞いておけばよかったと思います。兄がどんな人柄だったのか、どんな顔をしていたのか、今となっては何もわかりません。

命の尊さ

父は、筆者が18歳の時に亡くなりました。母も3年前に

95歳で世界しました。母の遺骨を納めるために墓を開けると、小さな骨壺が目に残りました。骨壺には兄の名前が書いてありました。「ああ、これが兄だ」と思いました。兄の骨壺の横に母のを納めた「兄さん、おふくろと一緒になれてよかったね」と思わずつぶやきました。涙が止まりませんでした。

「おくりびと」という映画が、注目を浴びています。注目を浴びている理由の一つは、死を軽んじる現代の風潮に一石を投じた映画だからでしょう。一人一人の死には、それぞれ的人生のかけがえのない生きざまが凝縮されています。その人の命は、世界に一つしかない、代替のきくものではないこと、つまり「命の尊さ」を訴えているように思います。

現代はコンピュータやロボット、テレビゲームなどに触れる機会が多くなっていますが、命あるもの、限りあるもの、崇高なものに触れる機会は少なくなっているように思います。自然界の命の輝きに触れる機会を、もっとつくっていくことが大切ではないでしょうか。

益城町教育委員会

益城町の地誌

歴史の変遷と地名

308

木山下町のガソリンスタンドの横の小さな坂道を登ると、大きな山川先生彰徳碑があります。かつては敷地も広く山川公園と呼ばれました。公園から西方は安永権現の森が見える所まで広々とした畑地でしたが、ここが旧木山高等小学校の敷地でありこの東南に彰徳碑が建てられました。現在学校敷地跡は民家が建ち並びその下半分は土手を削られパチンコ店の駐車場になっています。

山川先生、名は正。沿山津郷（秋津・飯野・広安・木山・福田・津森・河原・白水の旧八ヶ村）による木山高等小学校（明治三十年開校）の二代目校長。碑は昭和十一年三月旧子弟・有志にて建立されました。

先生は明治元年福田村福原の代々鎌鉦を作る野鍛冶の二男として生まれましたが、体軀は小さくても勝気で努力家。記憶力に優れ人徳があったと伝えます。

学を好み安永の細川藩士山川清房の漢学塾に通いました。明治十年西南戦争に薩軍に利あらず、木山を中心に周囲の村々は薩軍の病院、宿舎となりますが、生家が鍛冶屋の

ため薩軍の刀槍の研ぎ修理に酷使され、先生は修理が出来た刀数本を背にし十歳の少年ながら恐れもせず薩軍に納めて歩いたと伝えます。

やがて新設された熊本師範学校に入学、卒業後熊本市立高等小学校に奉職、五年後広安高等小学校に奉職。この時漢学の恩師山川清房の養子となります。清房の妻常子は徳富蘇峰、蘆花の長姉です。先生は広安の統合校舎を建築し校長として七年、八ヶ村組合立木山高等小学校校長十年、この後も各地の学校長として多くの人材を育て、退職後は広安村長として社会に尽くし昭和十二年七十二歳で逝去されました。



山川先生の彰徳碑

益城町文化財を訪ねる会

会長 松野國策